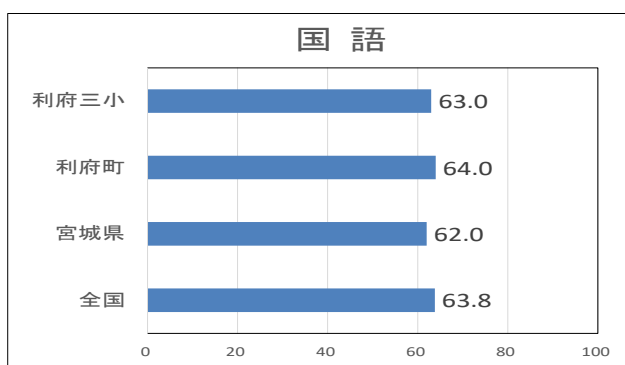


令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

今年の4月18日(木)に、全国の公立小学校に通う6年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月下旬に届きました。これに基づいて、この度、本校の児童の学習や生活の状況について、よさや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

1 学力調査の結果

【国 語】 平均正答率%

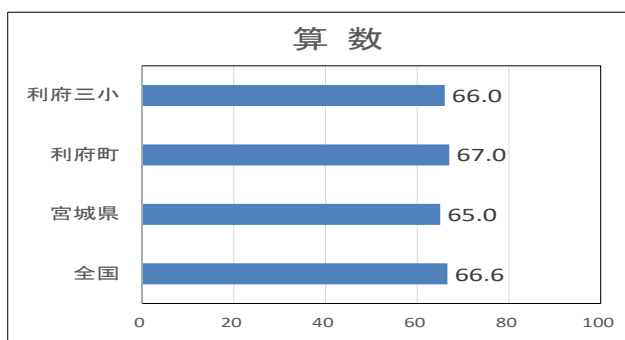


- ・国語は、全国の平均正答率を0.8ポイント下回っています。
- ・領域別では、「話すこと・聞くこと」では全国と同じ、「読むこと」では全国平均を0.2ポイント上回っていますが、「書くこと」では2.0ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国を2.3ポイント下回っており、この2領域で課題があることが分かりました。

具体的な学習状況 (◎よくできていた点 ●課題としてあげられる点)

- ◎知りたいことを調べるために本の中の文章やページを選択する問題の正答率が高くなっていました。
- ◎報告する文章の中で書き方の工夫を見つける問題の正答率が高くなっていました。
- 自分の考えの理由を、条件に沿って明確に記述する問題での間違いや無解答が多く見られました。
- 資料をどのような目的で用いているかを捉える問題に間違いが見られました。

【算 数】 平均正答率%



- ・算数は、全国の平均正答率を0.6ポイント下回っています。
- ・領域別では、「数と計算」が全国平均正答率を1.4ポイント、「数量関係」が0.2ポイント上回っていますが、「量と測定」が4.9ポイント、「図形」が0.4ポイント下回っており、特に「量と測定」の領域で課題があることが分かりました。

具体的な学習状況 (◎よくできていた点 ●課題としてあげられる点)

- ◎計算の成り立つ性質や計算のきまりに関する問題の正答率が高くなっています。
- ◎グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率が高くなっています。
- 面積の求め方の説明を記述する問題や時間の求め方と答えを記述する問題で、間違いや無解答が多く見られました。
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題で課題が見られました。

2 今後の取組について

(1) 国語

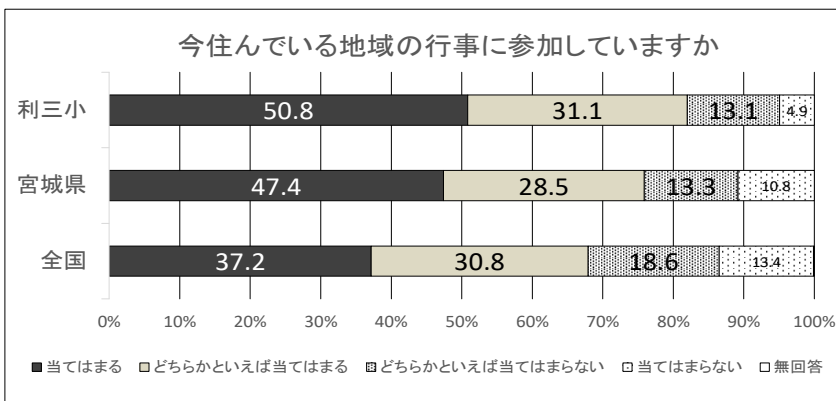
- 書く力をつけるために、授業の中でさまざまな「書く活動」を取り入れたり、週末の家庭学習の課題を条件作文とし、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く機会を多く設けていきます。
- これまで以上に多くの書物に触れる機会を設けるために、読書活動を全校で推進していきます。

(2) 算数

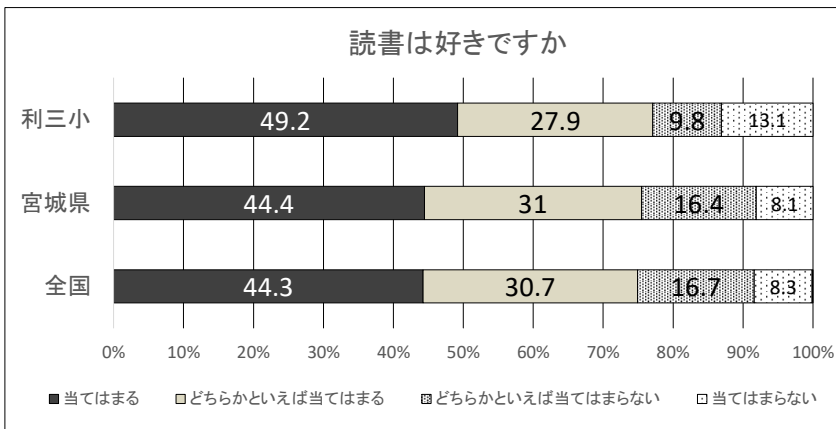
- 授業の中で、復習問題に取り組む時間を設け、既習事項の確認を随時取り入れていきます。
- 毎日の宿題や授業の補充プリントの中に「説明を記述する問題」などを多く取り入れたり、自主学習での取組を呼びかけたりしていきます。
- 授業の中で、自分の考えを順序よく話したり、理解した友達の考えを説明したりする学び合い活動に取り組ませ、筋道を立てて考える力や考えを説明する力を高めていきます。
- 多くの活用問題に触れさせ、最後まであきらめずに取り組む力をつけていきます。

3 学習状況調査の結果

(1) よい傾向が見られる項目

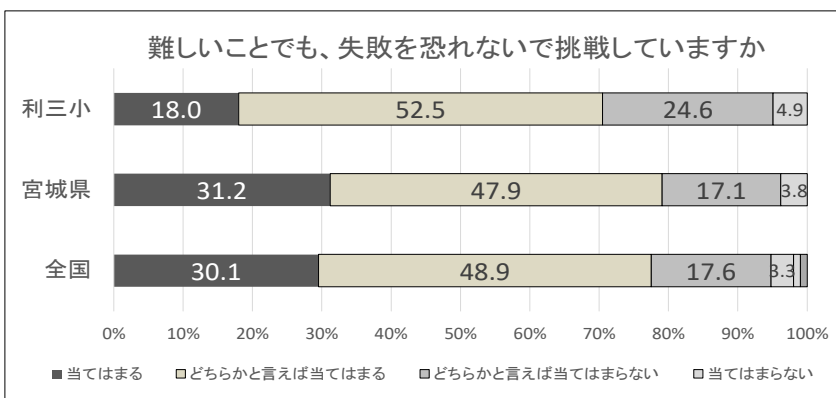


地域の行事や活動に関心を抱いている児童が多く、週末には81.9%の児童がさまざまな行事に参加していると回答しています。これは全国平均に比べ、13.9%も高くなっています。本校の児童が学校や地域の中で健やかに育っていることが伺えます。



全国平均に比べ、「読書が好き」と回答した児童は3.9%高くなっています。本校では、今年「三小チャレンジ30000冊」を目標に読書活動を推進しています。今後も児童が楽しんで読書活動に取り組めるよう、工夫していきます。

(2) 改善が必要と思われる項目



全国平均と比べ、「当てはまる」と回答している児童の割合が、12.1%低くなっています。学習場面においても、生活場面においても、「失敗しても大丈夫」「やってみよう」という気持ちになれるような学年経営・学級経営に努めてまいります。